

令和2年度下期 新潟市景況調査【速報】

調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」をみると、令和2年7～9月期は同4～6月期から改善し、続く令和2年10～12月期も同7～9月期からわずかながら改善した。足元の令和3年1～3月期は悪化する見込みである。先行きの令和3年4～6月期は同1～3月期からやや改善するものの、低水準で推移する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」、「受注」、「出荷量」はいずれも上昇し、「資金繰り」は改善した。在庫では「製・商品在庫」、「原材料在庫」とも不足超に転じた。価格では「仕入価格」は前期から概ね横ばいで推移し、「販売価格」は上昇した。また雇用では「所定外労働時間」、「1人当たり人件費」はともに上昇した。

経営上の問題については、「生産・受注・売上げ不振」の割合が最も高く、以下「人材不足」、「先行き見通し難」、「労働力不足」と続いている。

1. 調査の概要	1
2. 回収結果	1
3. 調査結果	2
(1) 業況判断	2
(2) 生産・売上	3
(3) 受注	3
(4) 出荷量	4
(5) 資金繰り	4
(6) 在庫	5
(7) 価格	6
(8) 雇用	7
(9) 設備投資	8
(10) 経営上の問題	9
4. テーマ別調査結果	
新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について	10

※注 文中において、「前期」「今期」「来期」については、特に説明がない限り、以下の時期である。

・ 前期 R2.1～R2.6月期 ・ 今期 R2.7～R2.12月期 ・ 来期 R3.1～R3.6月期

1. 調査の概要

- (1) 調査地域：新潟市全域
- (2) 調査対象：新潟市内の事業所（個人事業主を含む）
- (3) 標本数：2,000事業所
- (4) 抽出方法：総務省「事業所母集団データベース」から業種別・従業者規模別に無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（調査票の配付，回収とも）
- (6) 調査期間：令和3年1月5日～1月19日

[業種別・従業者規模別標本数]

	従業者規模区分			計
	1～4人	5～19人	20人以上	
	標本数	標本数	標本数	標本数
製造業	111	111	111	333
非製造業	557	555	555	1,667
建設業	111	111	111	333
運輸・通信業	111	111	111	333
卸・小売業	112	111	111	334
飲食・宿泊業	111	111	111	333
サービス業	112	111	111	334
計	668	666	666	2,000

2. 回収結果

	標本数	有効回収数	従業者規模区分			回収率
			1～4人	5～19人	20人以上	
総数	2,000	815	278	231	306	40.8%
製造業	333	184	70	51	63	55.3%
非製造業	1,667	631	208	180	243	37.9%
建設業	333	164	45	57	62	49.2%
運輸・通信業	333	106	25	29	52	31.8%
卸・小売業	334	97	27	28	42	29.0%
飲食・宿泊業	333	91	42	25	24	27.3%
サービス業	334	173	69	41	63	51.8%

【集計・分析にあたって】

- (1) 数値(%)は小数点第2位以下を四捨五入しており，総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。
- (2) BSI（Business Survey Index）は，総回答数に対する「良い・増加・過剰・上昇・好転」，「普通・不変・適正」，「悪い・減少・不足・低下・悪化」の率(%)を求め，下記計算により算出した。

BSIがマイナスになる場合は「▲」または「-」と表記している。

BSI=「良い・増加・過剰・上昇・好転」割合(%)－「悪い・減少・不足・低下・悪化」割合(%)

3. 調査結果

(1) 業況判断

ポイント

- 令和2年7～9月期の業況感を示した業況BSI（「良い」－「悪い」）は▲47.9と、同4～6月期の▲60.1から12.2ポイント改善した。続く令和2年10～12月期は▲43.6と、同7～9月期からさらに4.3ポイント改善した。
- 足元の令和3年1～3月期は▲56.9となり、令和2年10～12月期から13.3ポイント悪化する見込みとなっている。
- 先行きについてみると、令和3年4～6月期は▲53.8と、同1～3月期から3.1ポイント改善するものの、低水準で推移する見通しとなっている。

図1-1 業況判断BSI

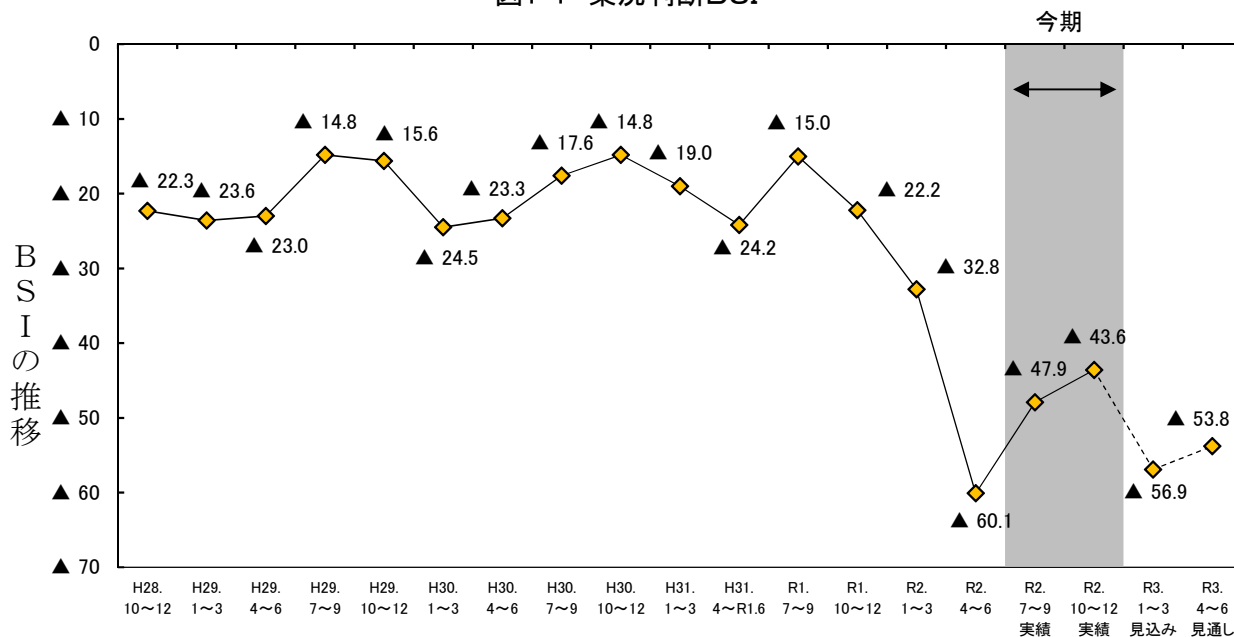
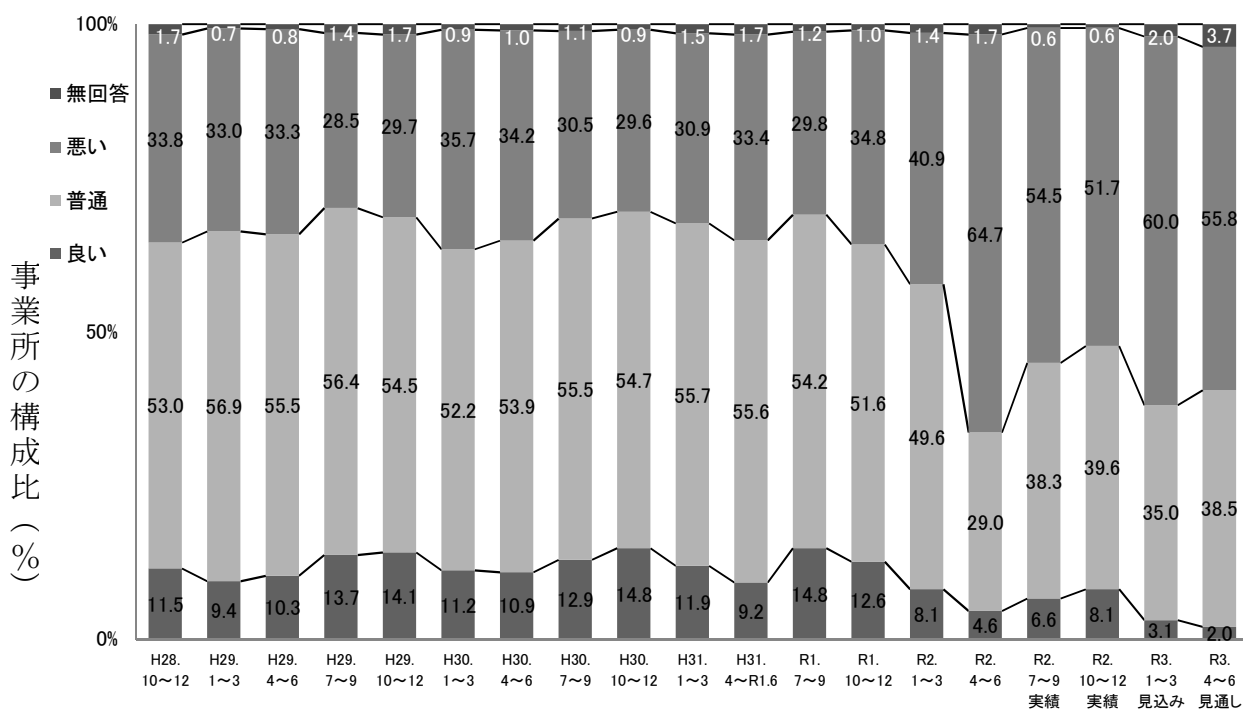


図1-2 業況判断の回答割合

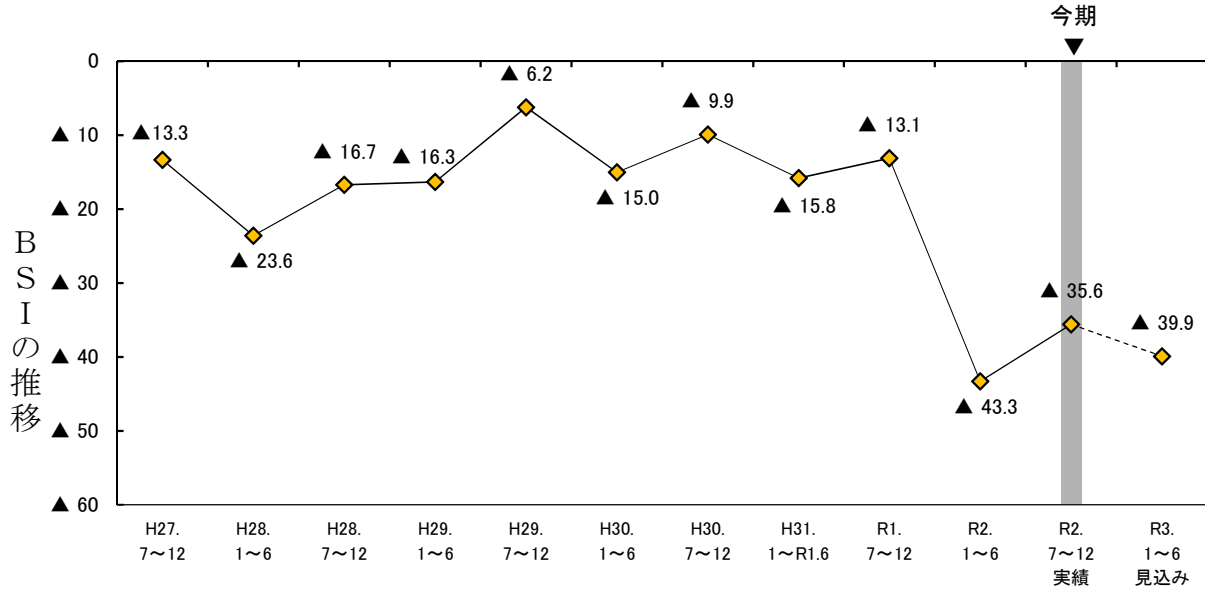


(2) 生産・売上

ポイント

- ・ 今期の生産・売上BSI（「増加」－「減少」）は▲35.6と、前期（▲43.3）から7.7ポイント上昇した。来期は▲39.9と、今期から4.3ポイント低下する見込みとなっている。

図2 生産・売上BSI

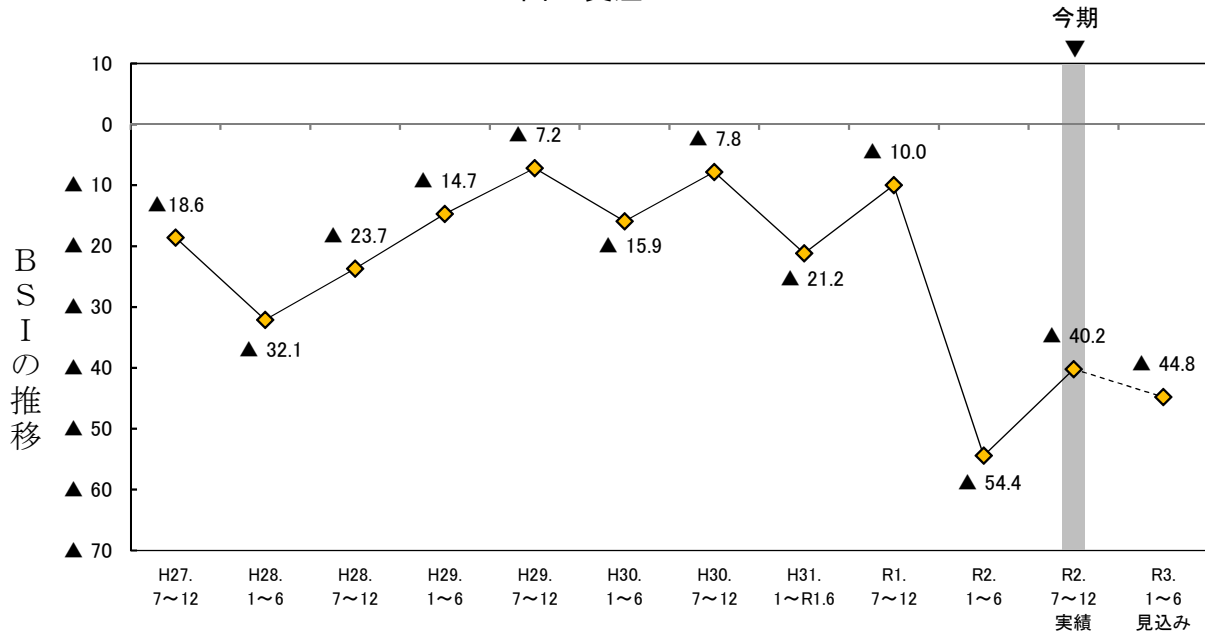


(3) 受注（製造業・建設業のみ）

ポイント

- ・ 今期の受注BSI（「増加」－「減少」）は▲40.2と、前期（▲54.4）から14.2ポイント上昇した。来期は▲44.8と、今期から4.6ポイント低下する見込みとなっている。

図3 受注BSI

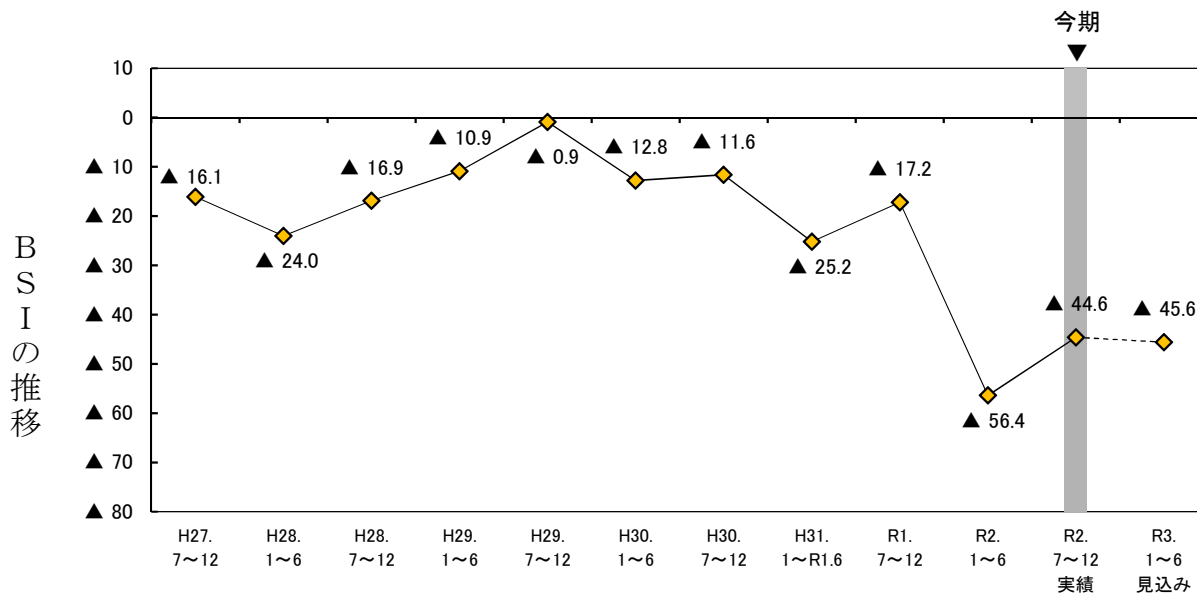


(4) 出荷量(製造業のみ)

ポイント

- ・ 今期の出荷量BSI（「増加」－「減少」）は▲44.6と、前期（▲56.4）から11.8ポイント上昇した。来期は▲45.6と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。

図4 出荷量BSI

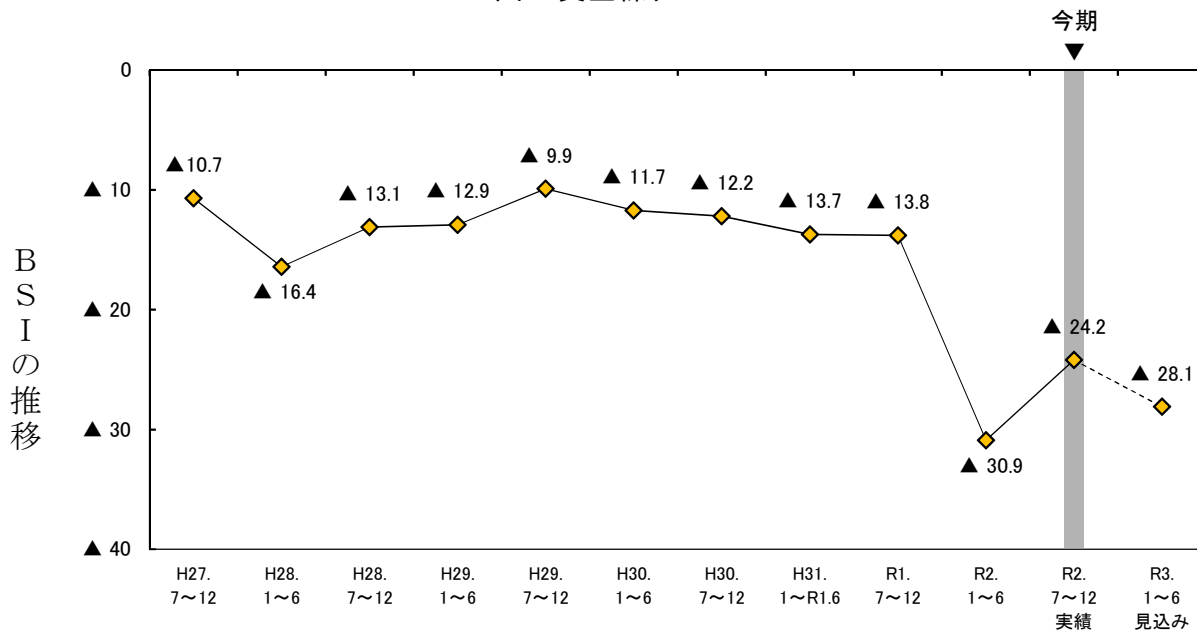


(5) 資金繰り

ポイント

- ・ 今期の資金繰りBSI（「好転」－「悪化」）は▲24.2と、前期（▲30.9）から6.7ポイント改善した。来期は▲28.1と、今期から3.9ポイント悪化する見込みとなっている。

図5 資金繰りBSI



(6) 在庫(原材料在庫は製造業のみ)

ポイント

- 今期の製・商品在庫BSI(「過剰」－「不足」)は▲0.4と、前期(2.9)から3.3ポイント低下し、不足超に転じた。来期は▲1.9と、今期からさらに1.5ポイント低下する見込みとなっている。
- 今期の原材料在庫BSI(「過剰」－「不足」)は▲1.7と、前期(1.8)から3.5ポイント低下し、不足超に転じた。来期は▲2.7と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。

図6-1 製・商品在庫BSI

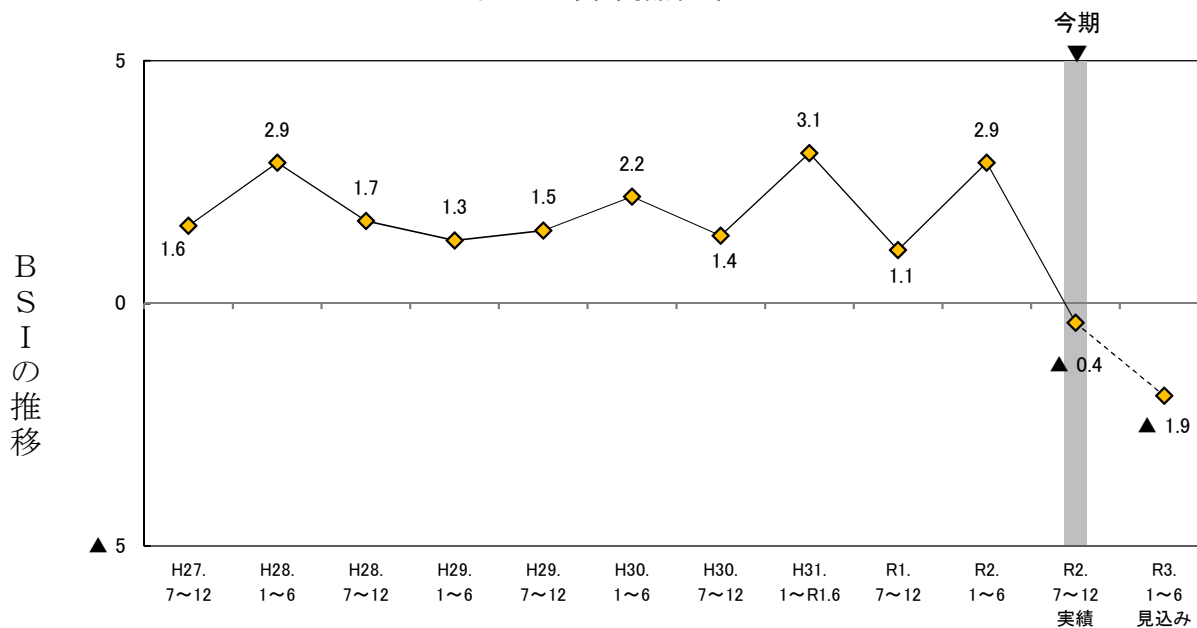
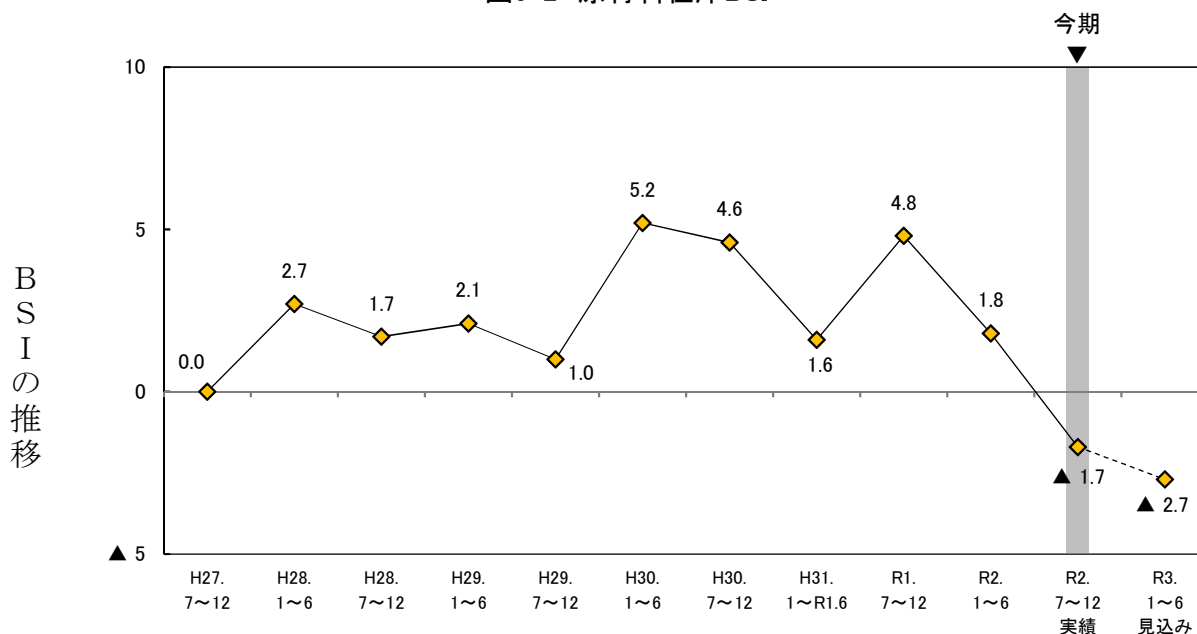


図6-2 原材料在庫BSI



(7) 価格

ポイント

- 今期の仕入価格BSI（「上昇」－「低下」）は3.6と、前期（3.9）からほぼ同水準で推移した。来期は4.7と、今期からわずかに上昇する見込みとなっている。
- 今期の販売価格BSI（「上昇」－「低下」）は▲9.8と、前期（▲16.5）から6.7ポイント上昇した。来期は▲11.8と、今期から2.0ポイント低下する見込みとなっている。

図7-1 仕入価格BSI

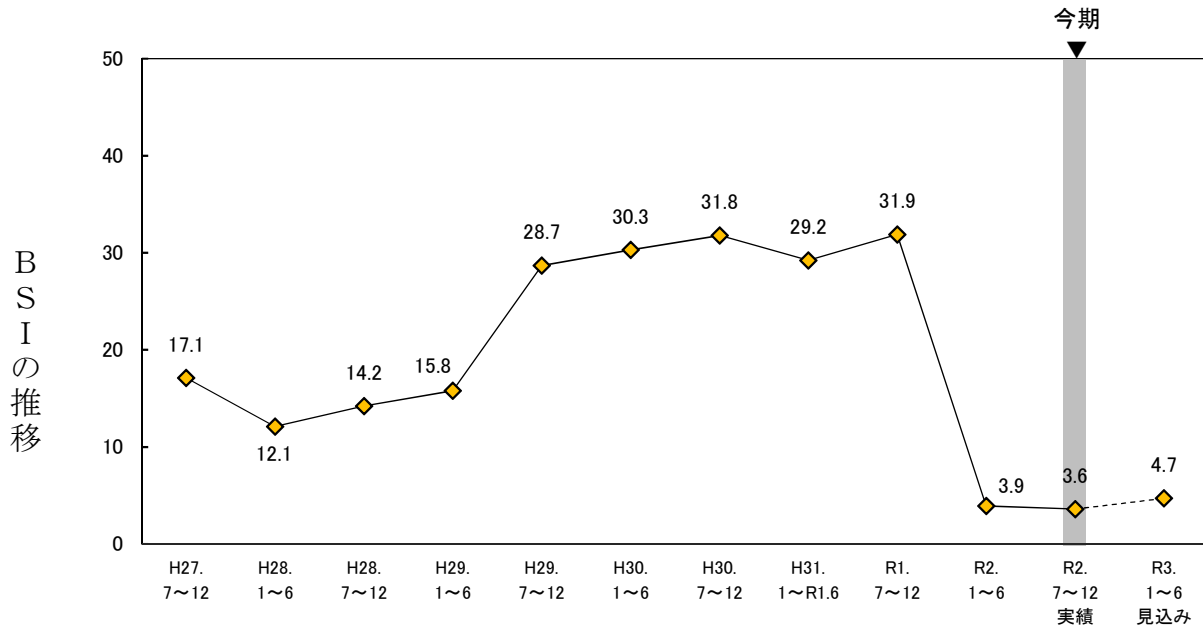
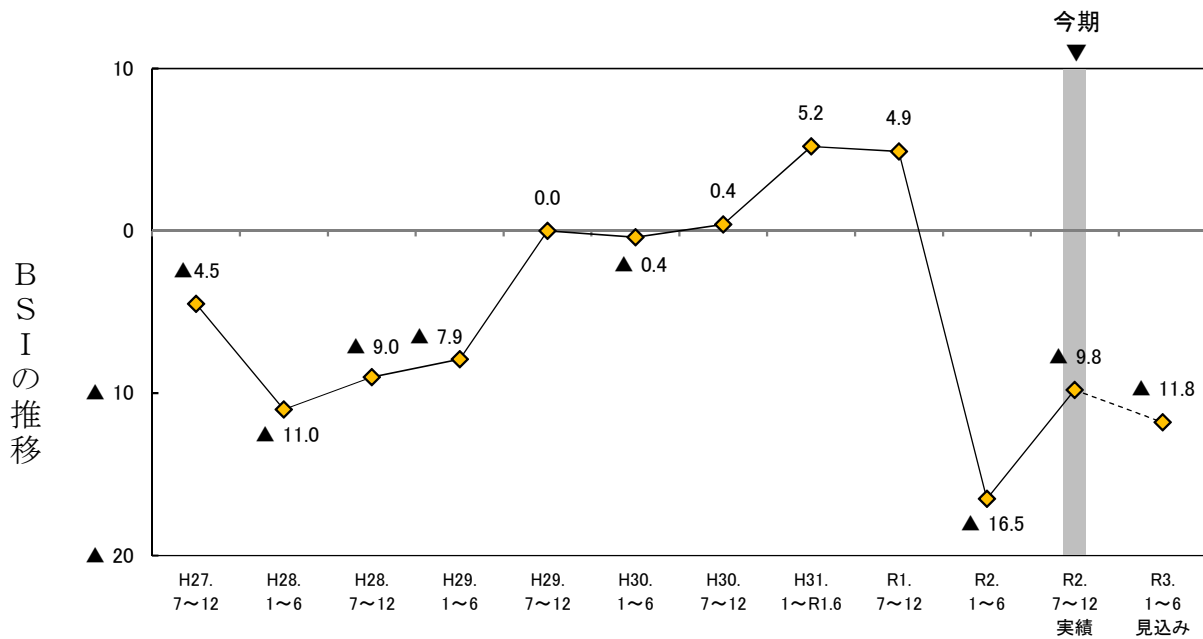


図7-2 販売価格BSI



(8)雇用

ポイント

- 今期の所定外労働時間BSI（「増加」－「減少」）は▲23.1と、前期（▲32.4）から9.3ポイント上昇した。来期は▲22.7と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。
- 今期の1人当たり人件費BSI（「増加」－「減少」）は▲1.7と、前期（▲4.4）から2.7ポイント上昇した。来期は▲2.2と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。

図8-1 所定外労働時間BSI

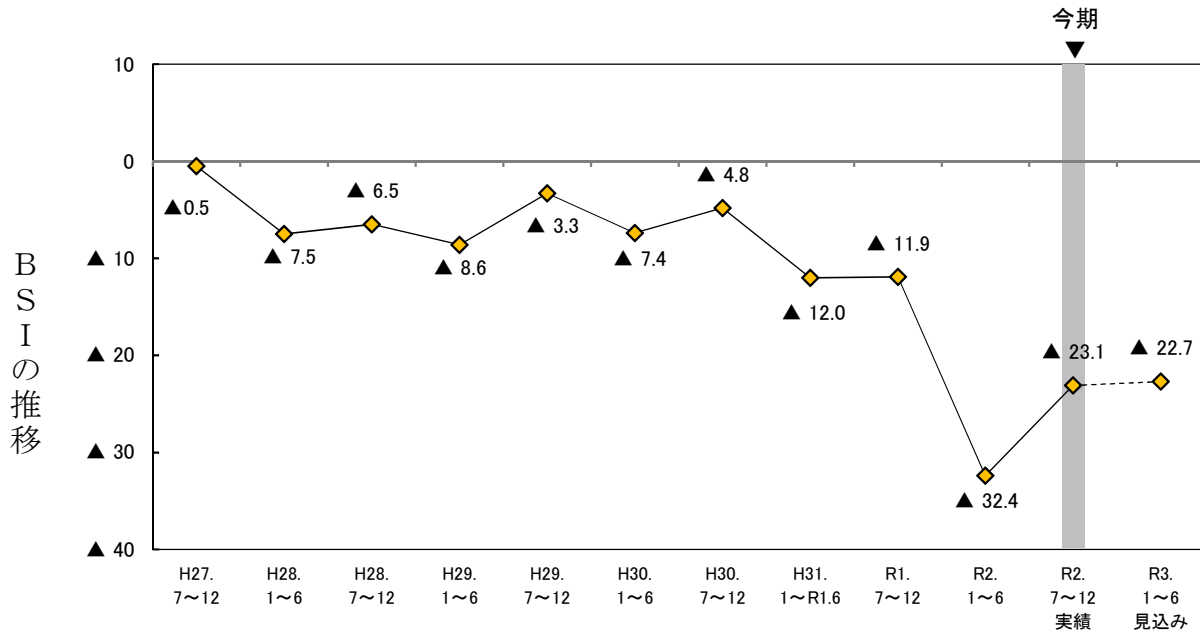
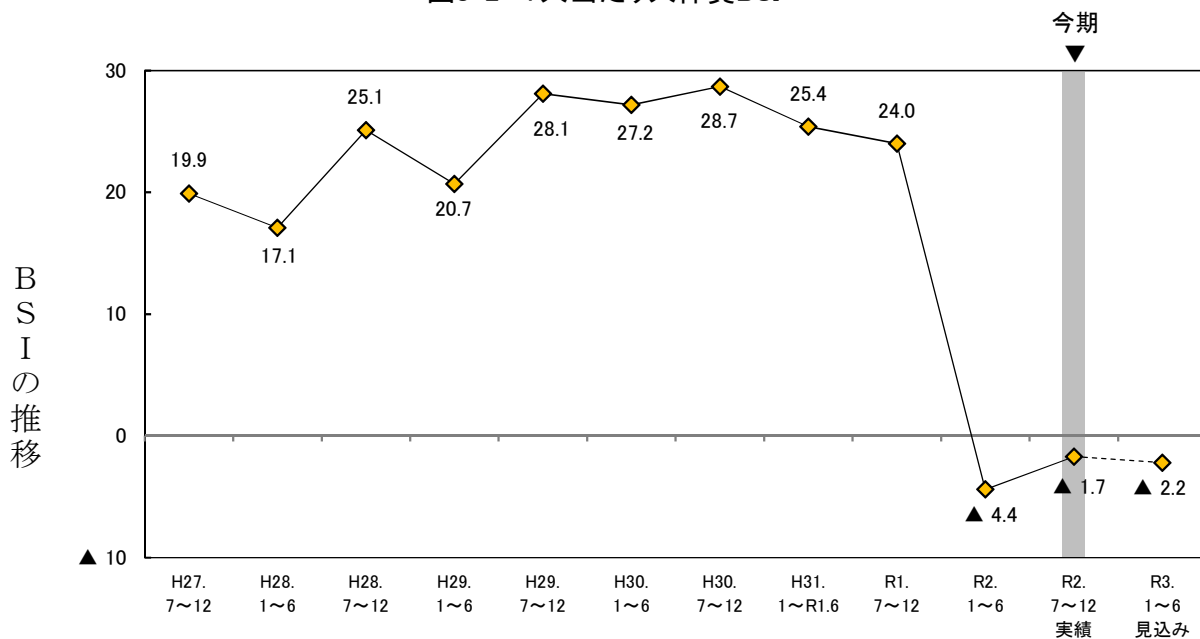


図8-2 1人当たり人件費BSI



(9) 設備投資

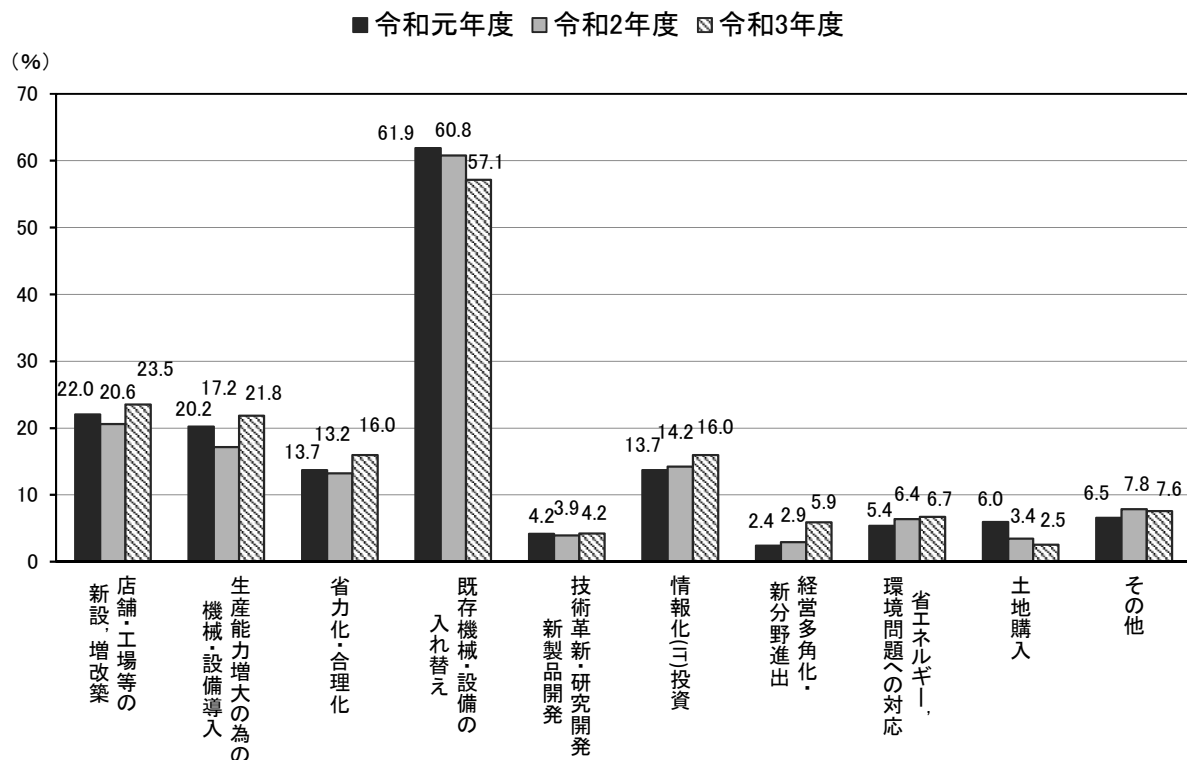
ポイント

- 令和2年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は29.0%と、令和元年度の実績（23.5%）から5.5ポイント上昇する見込みとなっている。令和3年度（計画）は17.0%と、令和2年度から12.0ポイント低下する見通しとなっている。
- 令和2年度の設備投資の目的（複数回答）としては、「既存機械・設備の入れ替え」が60.8%と最も高く、次いで「店舗・工場等の新設，増改築」（20.6%）、「生産能力増大の為の機械・設備導入」（17.2%）、「情報化（IT）投資」（14.2%）などとなっている。

表1 設備投資の実施事業所割合と設備投資額の前年度比増減率

	設備投資の実施事業所割合			設備投資額の前年度比増減	
	令和元年度 実績	令和2年度 実績見込み	令和3年度 計画	令和2年度/令和元年度	令和3年度/令和2年度
全体	23.5%	29.0%	17.0%	27.0%	▲ 88.8%
【従業者規模別】					
4人以下	9.8%	16.2%	5.0%	31.3%	▲ 81.3%
5人～19人	19.0%	28.8%	10.0%	250.0%	▲ 63.3%
20人以上	36.4%	38.2%	30.5%	24.0%	▲ 89.7%
【業種別】					
製造業計	28.3%	36.4%	19.4%	▲ 62.2%	▲ 36.9%
非製造業計	21.9%	26.7%	16.3%	68.0%	▲ 94.1%
建設業	26.6%	27.6%	20.6%	▲ 17.5%	▲ 45.6%
運輸・通信業	28.6%	34.9%	27.1%	72.7%	▲ 98.0%
卸・小売業	16.7%	20.5%	13.4%	101.2%	▲ 84.7%
飲食・宿泊業	16.2%	38.9%	10.8%	591.0%	▲ 89.8%
サービス業	19.3%	18.7%	10.1%	47.1%	▲ 42.4%

図9 設備投資の目的（複数回答）

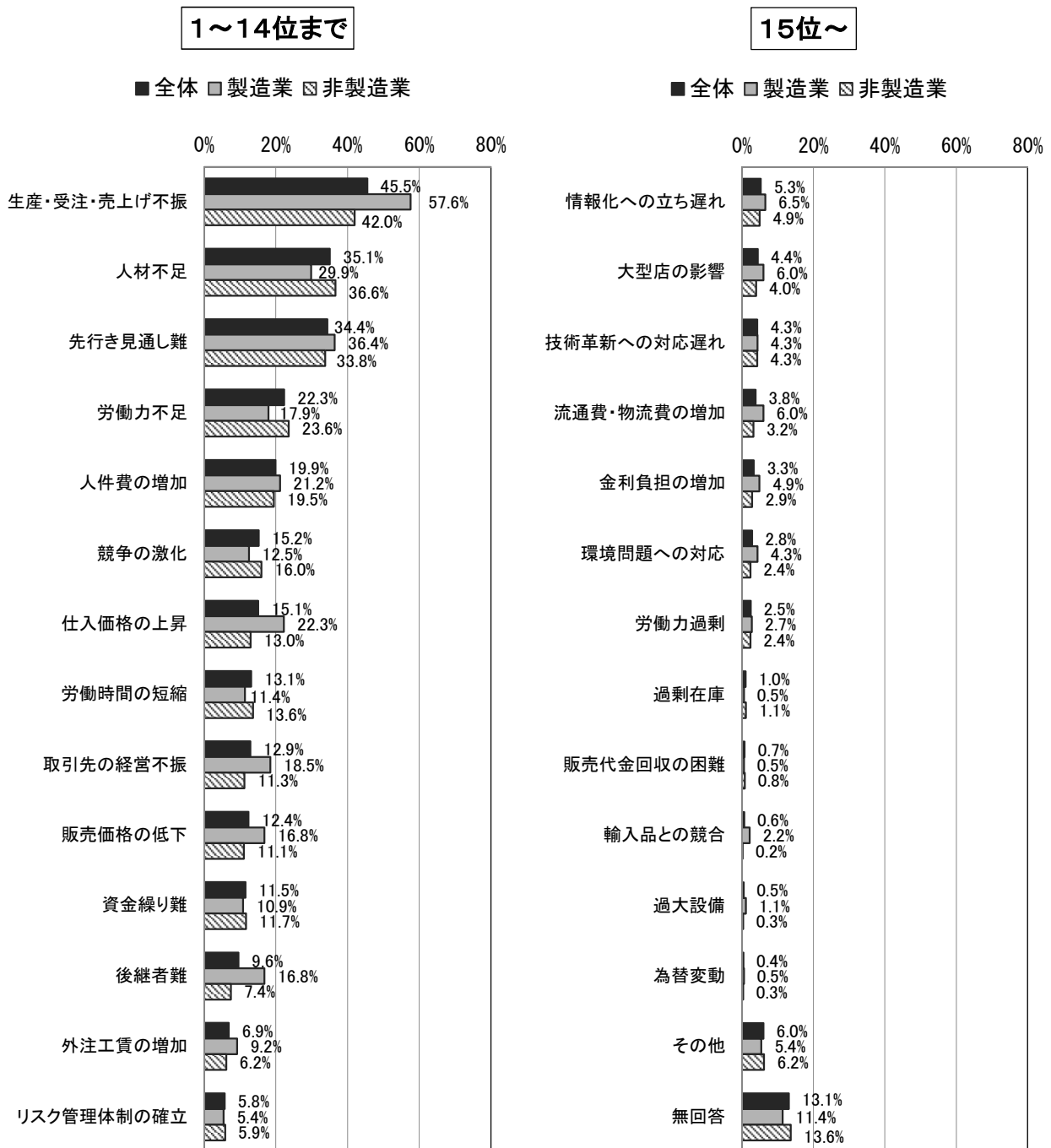


(10) 経営上の問題

ポイント

- 経営上の問題（複数回答）についてみると、全体では「生産・受注・売上げ不振」（45.5%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（35.1%）、「先行き見通し難」（34.4%）、「労働力不足」（22.3%）と続いている。
- 業種別にみると、製造業では「生産・受注・売上げ不振」（57.6%）の割合が最も高く、以下「先行き見通し難」（36.4%）、「人材不足」（29.9%）と続いている。
- 非製造業では「生産・受注・売上げ不振」（42.0%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（36.6%）、「先行き見通し難」（33.8%）と続いている。

図10 経営上の問題(複数回答)



4. テーマ別調査結果

—新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について—

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について、新潟市内の事業所を対象に調査を実施した。

【テーマ別調査回答数】

	標本数	有効回収数	従業者規模区分			回収率
			1～4人	5～19人	20人以上	
総数	2,000	786	259	225	302	39.3%
製造業	333	177	67	48	62	53.2%
非製造業	1,667	609	192	177	240	36.5%
建設業	333	160	44	55	61	48.0%
運輸・通信業	333	103	24	29	50	30.9%
卸・小売業	334	93	23	28	42	27.8%
飲食・宿泊業	333	87	38	25	24	26.1%
サービス業	334	166	63	40	63	49.7%

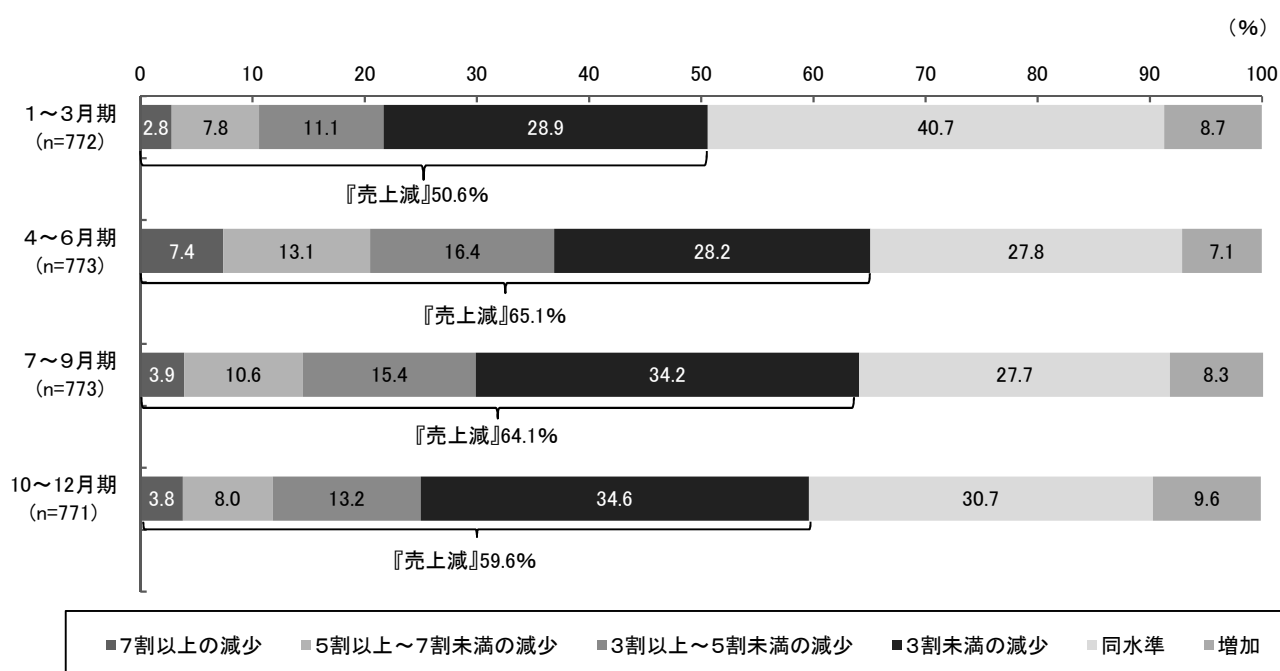
1. 令和2年の四半期ごとの売上高前年同期比推移

ポイント

- 令和2年の四半期ごとの売上高を前年同期比の推移でみると、『売上減』の割合は「1～3月期」が50.6%、「4～6月期」が65.1%と上昇した後、「7～9月期」が64.1%、「10～12月期」が59.6%と徐々に低下している。

図 1-1 令和2年の四半期ごとの売上高前年同期比推移

(回答割合[無回答を除く])



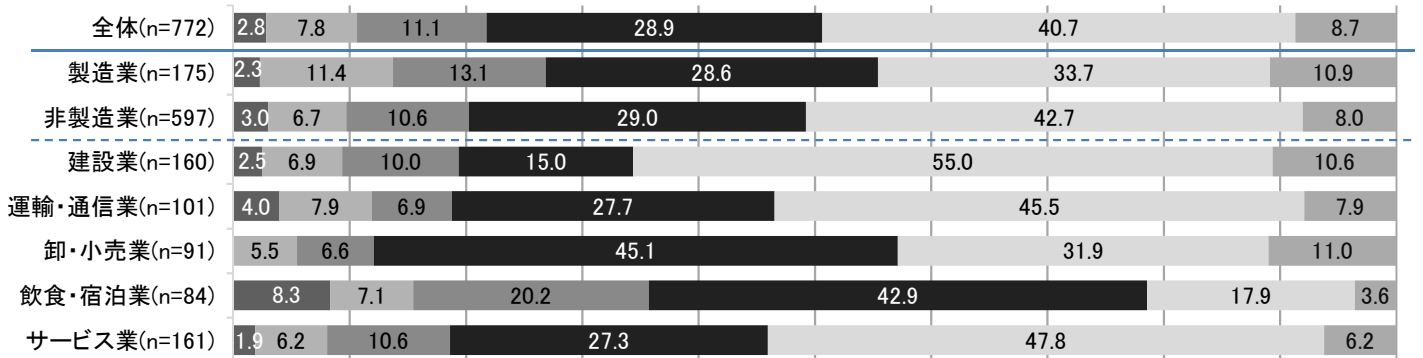
ポイント

- ・業種別にみると、『売上減』の割合は、各期とも非製造業より製造業で高くなっている。
- ・個別業種についてみると、『売上減』の割合は、各期とも飲食・宿泊業が最も高く、建設業が最も低くなっている。

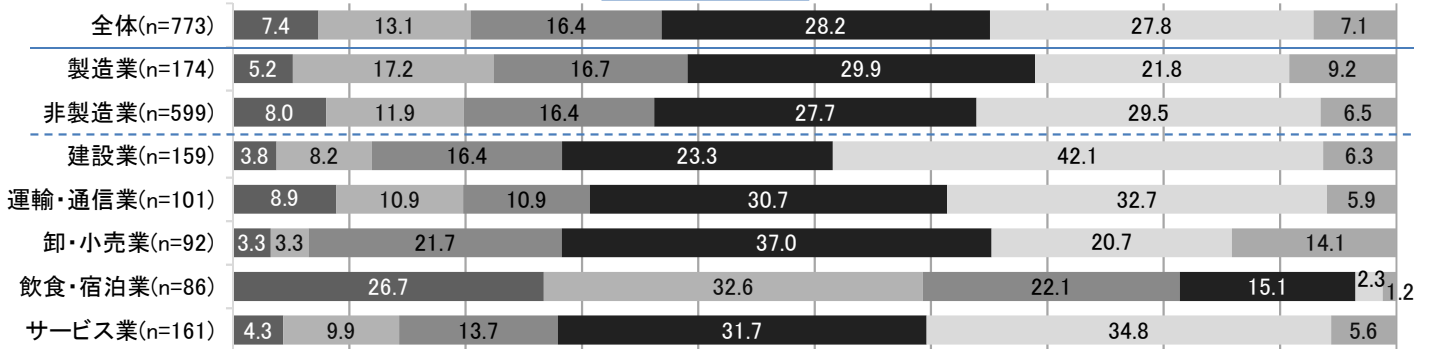
図 1-2 令和2年の四半期ごとの売上高前年同期比推移(業種別)

(%)

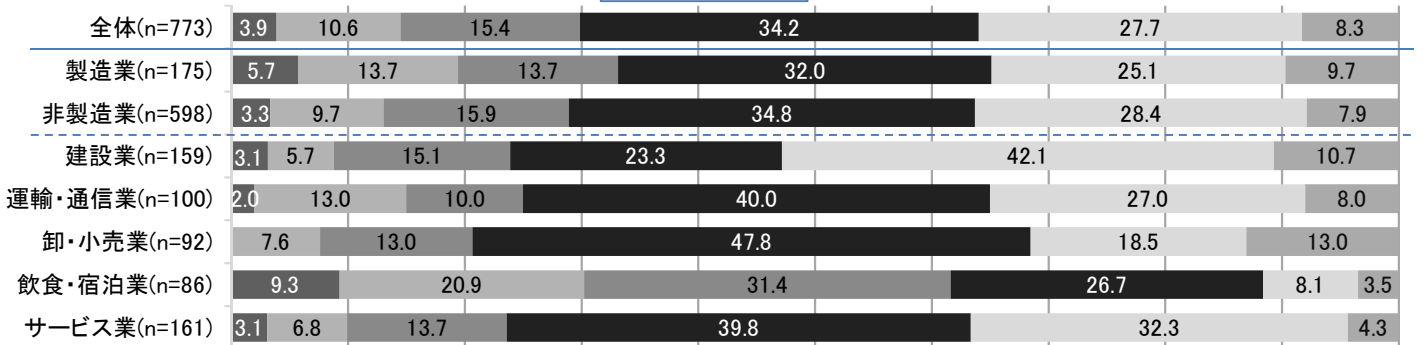
令和2年1～3月



令和2年4～6月



令和2年7～9月



令和2年10～12月



0%

50%

100%

7割以上の減少
 5割以上～7割未満の減少
 3割以上～5割未満の減少
 3割未満の減少
 同水準
 増加

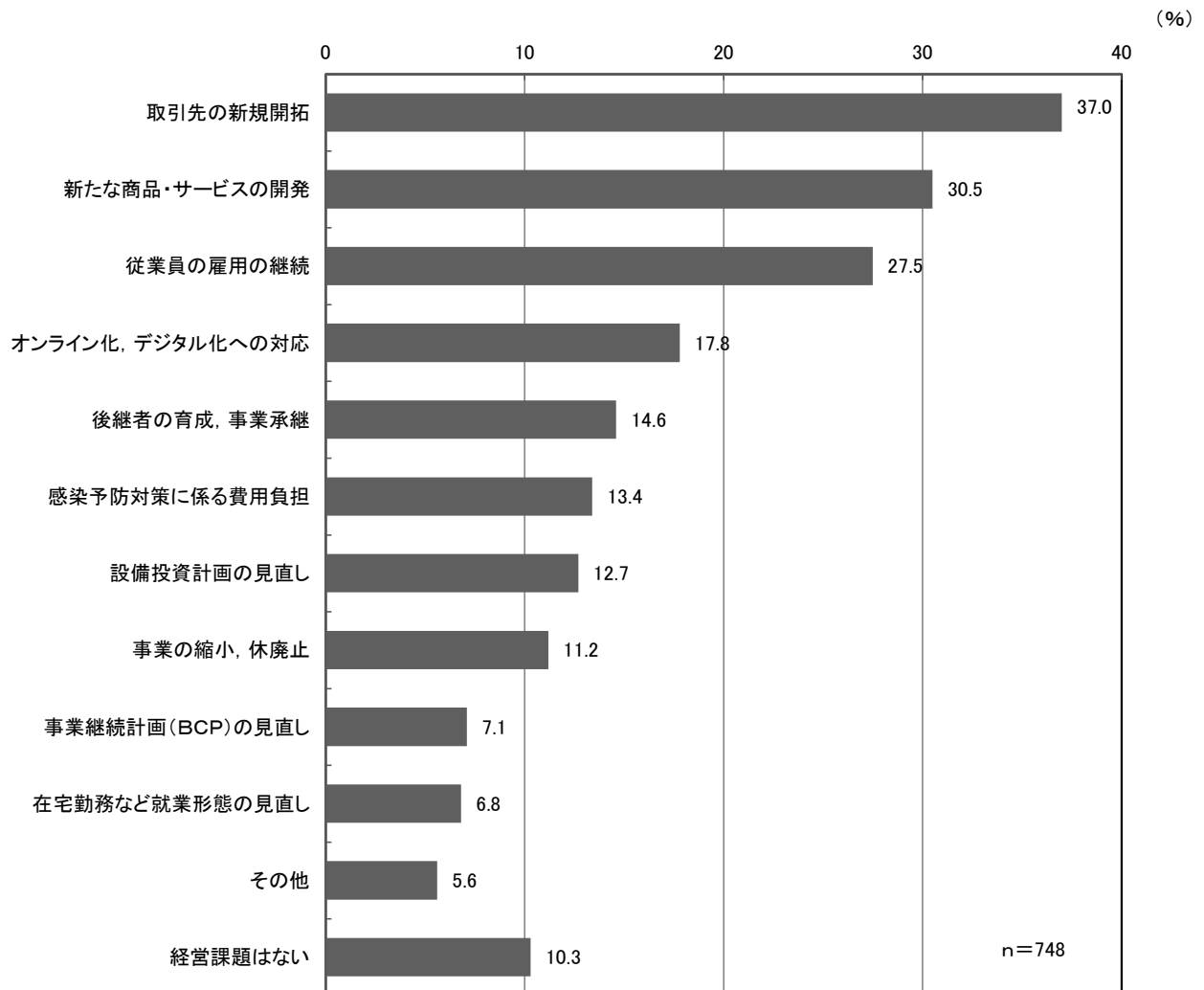
2. 現在の経営課題

ポイント

- ・現在の経営課題を尋ねたところ（複数回答）、「取引先の新規開拓」の割合が37.0%と最も高く、以下「新たな商品・サービスの開発」（30.5%）、「従業員の雇用の継続」（27.5%）などが続いている。
- ・何らかの『経営課題がある』の割合は89.7%となっている。一方、「経営課題はない」は10.3%となっている。

図2 現在の経営課題(複数回答)

(回答割合[無回答を除く])



令和2年度下期 新潟市景況調査【速報】
(令和2年7月～令和2年12月期)

発行 令和3年2月
新潟市経済部産業政策課
新潟市中央区古町通7番町1010番地 古町ルフル5階
電話 025-226-1610